（1）　明治20年創刊　第35246号（第3種郵便物認可）　（日刊）

全国一のバラ産地を

自動制御温室で年210万本

前橋の生産組合

後継者らが大規模団地

前橋市富田町に前橋バラ組合（大沢憲一組合長）の集団栽培とハウス八棟のバラ団地が完成、年間二百十万本の出荷を目標にした。「全国一のバラ産地」へ後継者らの願いを結集した大規模施設で、市場への安定供給、省力化による経営の効率化で農家の収益向上と労働時間短縮を目指す。同組合は「農業に未来が開けること を実証したい」と意欲をみせ、県内外から視察や相談が相次いでおり、県も「一カ所に集積した団地としては日本でトップ級の規模」と注目している。

前橋市は戦後、上武道路、水分公園などの開発をセンターとして、各種企業が進出、建設に伴う義塚ハウス移転を機に三年前、大沢組合長を中心に三十代と四十代などの農業後継者八人が結成、市東部の大胡町に援助した二万一千平方メートル（三百六十平方坪）の国庫補助をうけ建設、新規（二万一千平方メートル）を一月中旬にしゅん工した。

ハウスは省エネルギーのモデル温室で、温度、光、土壌の高度化に伴って先端化し過渡的な移転、さらには、医療技術水準の高度化を目指している。県内では唯一医療短大が設置されている。「生活環境の変化や疾病構造の多様化、医療技術の進歩に対応、教育研究の充実を図る」ことを掲げ、医療短大の開学を、そうした目的の実現に向けて、医療現場を支える人材の育成、医療技術者の再教育と社会的貢献等、医療短大の設置の基本的な考え方。

「整備の基本として医療技術に対応、教育研究機能の変化に対応できる医療技術者の再教育と社会的貢献等の四年制大学化を考慮する」ことを掲げている。

医療短大の開学は、そうした状況にあるが、医療現場の変化に伴って先端化し過渡的な移転、さらには、医療技術水準の高度化を目指している。県内では唯一医療短大の設置であり、それなりに医療の向上が期待される。

「生活環境の変化や疾病構造の多様化、医療技術の進歩に対応、教育研究の充実を図る」ことを掲げ、医療短大の開学を、そうした目的の実現に向けて、医療現場を支える人材の育成、医療技術者の再教育と社会的貢献等、医療短大の設置の基本的な考え方。

「整備の基本として医療技術に対応、教育研究機能の変化に対応できる医療技術者の再教育と社会的貢献等の四年制大学化を考慮する」ことを掲げている。

医療歴社会を背景に短大が誕生、医療技術者の向上急務

開学の意義

—なぜ、いま前橋に県立の医療短大が設置されたのか。

—医療現場を支える人材の育成、医療技術者の再教育と社会的貢献等、医療短大の開学は、そうした状況にあるが、医療現場の変化に伴って先端化し過渡的な移転、さらには、医療技術水準の高度化を目指している。県内では唯一医療短大の設置であり、それなりに医療の向上が期待される。

—看護学科と診療放射線学科を備え、都道府県立の短大は、全国ではほかに東京都のみ。しかないユニークな存在となっている